

2026年教育カウンセリング・オンライン研修会 参加者感想アンケートまとめ

秋田県教育カウンセラー協会

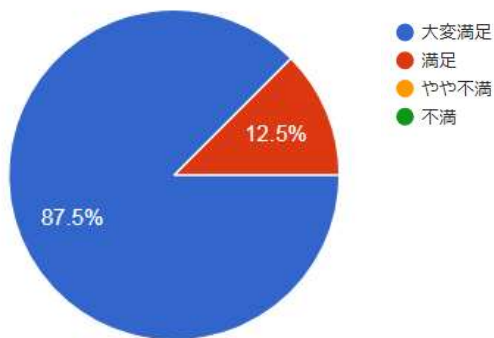
2026年5月9日(土) 10:00～12:00

研修会テーマ

「福祉・心理学的視点を生かした児童生徒への支援」

講師：菅野 恵先生(和光大学現代社会心理教育学科 教授)

① 研修会全般について (回答数8名分)



② 研修会の内容について (回答数8名分)



③ 研修会の内容についての感想

☘ 児童虐待については研修も受けてある程度理解していたつもりでしたが、菅野先生の丁寧で優しい語り口と事例やビデオ等を交えた説明で、より理解を深めることができました。現在対応している自傷行為が激しい生徒さんの背景にも、ネグレクトや心理的虐待が強く影響していることを理解できました。限界設定の意味も忘れにないようにしたいと思います。

☘ 今回は概要で自分にはちょうどよかったが、一つ一つを詳しく聞きたくなりました。次は個別に掘り下げて聞いてみたいです。一方で、支援が必要な子ども・家庭は、貧困、親の成育歴や障害、病気など複合的な原因で現状に至っていることが多く介入や支援の難しさも痛感しました。特に気になったのは、貧困による消極的ネグレクトとそうでないところの区別、それぞれに対してできる支援。どのような環境でも本人にすればそれが当たり前のまま大人になってしまうので、困りごとへの早期の自覚は難しいと感じます。

☘ いつもありがとうございます。今回も興味深い内容で、たくさんの学びを得たいと思い参加させていただきました。以前勤務した中学校の生徒が、学校という枠組みから外れた途端に生活がしにくくなりました。高校に進学したものの続かず、能力が低いので働くこともままならず、やっと働いて得た微々たる収入も親に搾取されるという状況で生きています。市に相談するも手続きや「お役所仕事」の壁に阻まれ福祉もうまく届かず、かといって私には小さな力しかないため、言葉と気持ちで毎回のトラブルを乗り切っています。いつも自分の知識と力のなさにがっかりします。今回はそういったこともお聞きしたかったのですが、時間も無くお尋ねできませんでした。予定されていた「支援」の部分をもう少しお聞きしたかったです。また機会があれば伺いたいです。菅野先生、秋田カウンセラー協会の皆さま、ありがとうございました。

☘ 児童虐待やヤングケアラーなどの事例を詳しく知ることができました。本日はありがとうございました。

☘ 貧困やヤングケアラーなど、これまで別々の問題として捉えがちだったことと、日々向き合っている生徒の行動上の課題が、一本の線でつながったように感じました。特に、親の感情面のサポートを担うこともヤングケアラーに含まれると捉えると、ひとり親家庭の割合が高い本校においては、かなりの割合でヤングケアラーの状況にある生徒がいるのではないかと感じました。困っていてもSOSを出すことが難しい生徒に対して、学校がどのような切り口で関わり、支援につなげていくかを考えていきたいと思います。

☘ 学校では、不登校や貧困、児童虐待など、多岐にわたる課題に向き合う機会が増えています。どれも学校単独では受け止めきれない複雑な問題ばかりです。菅野先生からはこれらの課題を具体的に提示いただき、生徒に関わる際のヒントを多く受け取りました。

福祉や心理の知識は、私たちの経験や熱意を支える「確かな根拠」になります。客観的な知識があってこそ、私たちは落ち着いて物事を見て、方針を考えられるはず。今後は、一時保護などの具体的な連携事例や、児童への関わり方をさらに学ぶ機会を願います。

特に、以下の点についての学びを深めたいと考えております。

- ・児童が一時保護された後に、関係機関とどのように連携を図るか。
- ・一時保護に対して、不安や抵抗感を示す保護者へどのように向き合うか。

虐待をせざるを得ない状況に追い込まれた保護者は、子どもと離される不安を抱えるものです。そのとき、学校の先生から一時保護についての簡単な説明を受けられたら、どれほど安心できることか。学校が保護者の不安に寄り添い、丁寧に対応することの意義を強く再認識した研修でした。先生のお話をまた伺いたいと願っております。ありがとうございました。

☘ 介護で移動が難しく、オンライン研修がありがたいです。

☘ ゆったりとした丁寧な語り口でお話しくださり、内容が自然と心に入ってくるご講義でした。ありがとうございました。

菅野先生のゼミで取り組まれている、子育て世代の方々を対象とした「オレンジリボン運動プロジェクト」の実践は大変興味深かったです。それぞれが自分の守備範囲で、できることから取り組みながら、理解や連携に繋げていくことが大切だと思いました。

また、逆境的な子ども時代を経験したとしても、その影響を次世代へ連鎖させないためには、どのような支援やかかわりが必要なのかについて深く考える機会となりました。ご講義を通して、困難な体験を抱えながらも、適切な支援や安心できる関係性によって回復や成長につながる可能性があることを改めて学ばせていただきました。

ヤングケアラーへの支援についてのお話も大変考えさせられました。これまでかかわったケースでは家庭内の事情等から外部機関の支援につながりにくいケースも多く、生徒さん自身が自らの置かれている状況について適切に理解し、将来に向けて前向きに生活していけるように心理的支援を行ったり、関係性の持ち方について助言したり、環境調整を行ったりすることなどが現状においてできる支援であると感じます。一方で、心理教育が本人や周囲の理解を深め、必要な支援につなげる上で重要な役割を果たしていることを理解することができましたため、今後は周囲の理解の促進や支援体制づくりも含め、どのような支援ができるかをさらに検討していきたいと思います。

後半の支援に関するご講義は、大変興味深い内容でしたので、もう少し時間をかけてじっくりと伺いたかったです。またの機会にぜひ菅野先生のご講義を拝聴できればと思っています。ご紹介いただいた関係書籍につきましても、ぜひ読ませていただき、さらに学びを深めていきたいと思っています。

《参考》 協会役員の木村留衣子さんからのタイムリーな情報になります。

秋田県出身の漫画家・山田はまち先生による「ヤングケアラー」を題材とした漫画『雪降る夜に』

美の国秋田 ネット : <https://www.pref.akita.lg.jp/pages/archive/90533>

————— 研修会に参加された皆様、アンケートへのご協力をありがとうございました。

秋田県教育カウンセラー協会では、皆様方のご期待にお応えできるよう、さらに努力してまいりますので、今後ともご支援、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

